

ヤングシート Young Seat



10/5²⁰²⁵ (日) 会場 東京芸術劇場コンサートホール

第1028回定期演奏会Cシリーズ
Subscription Concert No.1028 C Series

指揮／ヨーン・ストルゴーズ
ヴァイオリン／ヴェロニカ・エーベルレ

ベートーヴェン：
ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.61
(カデンツァ／イェルク・ヴィトマンによる
[日本初演]) (約54分)

シベリウス：
交響曲第3番 ハ長調 op.52
(約30分)

ホールでの 過ごし方

- ◎携帯電話など音や光を発するモノは電源を切りましょう。
- ◎演奏中は静かに聴きましょう！
周りの人も演奏を楽しんでいます。
- ◎公演中の録音・録画、写真撮影は禁止です。
終演後のカーテンコール時のみ
写真の撮影が可能です。

東京都交響楽団

〔 Program Notes 〕 プログラムノート

今日のコンサートは、フィンランド出身の指揮者ヨーン・ストルゴーズが登場します。後半には、彼の祖国が誇る作曲家シベリウスの交響曲を取り上げます。

ベートーヴェン： ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.61

ときは19世紀の始め。音楽のさかんなウィーンの街では、ひとりの器楽奏者がオーケストラとともに名人芸を披露する「協奏曲」が人気となっていました。10代の頃から“神童”と呼ばれた天才的なヴァイオリニストのフランツ・クレメント（1780～1842）は、25歳のときに自分が主役を務める演奏会で、素晴らしい「ヴァイオリン協奏曲」を披露したいと考えました。そこでルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）に作曲を頼みます。その頃のベートーヴェンは35歳。オペラ「レオノーレ」や交響曲第3番「英雄」、ピアノ・ソナタ第23番「熱情」など、次々と名曲を生み出していたのです。そんな大忙しのベートーヴェンに、クレメントが作曲を依頼したのは、なんと演奏会の1ヶ月ほど前。急ピッチで作曲が進められました。初演は1806年12月23日。ベートーヴェンはギリギリまで楽譜を書き続けていたので、クレメントは本番に初めて楽譜を見て演奏したそうです。

ところで、「協奏曲」には楽章の終わりあたりで、独奏者がたった一人で演奏する腕の見せ所があります。「カデンツァ」と呼ばれるその部分は、独奏者が即興で演奏したり、別の人を作ったカデンツァを入れてもいいことになっています。今日の演奏会では、現代の人気作曲家イェルク・ヴィトマンがエーベルレ（本日のソリスト）とラトル&ロンドン交響楽団のために書き下ろしたカデンツァが日本で初披露されます。ベートーヴェンのモチーフを生かした、現代的でユニークなカデンツァです。第1楽章のカデンツァは、ティンパニとコントラバスという2つのオーケストラの楽器も加わります。第2楽章のカデンツァは、オーケストラのコンサートマスターがソリストに静かに寄り添います。第3楽章では再びティンパニとコントラバスが力強く合いの手を入れるという、とてもユニークなカデンツァです。

第1楽章はティンパニの「タンタンタンタン」という4つの音で始まります。この音は曲全体で何度も出てきて、曲をまとめる役割をします。木管楽器がメインのメロディーを演奏し、その後ヴァイオリン独奏がそのメロディーを繰り返します。**第2楽章**はゆっくりとした変奏曲です。オーケストラの弦楽器、ホルンとクラリネット、ファゴットが主題を奏で、独奏



Ludwig van Beethoven

©Marco Borggreve



イェルク・ヴィトマン Jörg Widmann
(1973年、ミュンヘン生まれ)
クラリネット奏者、作曲家、指揮者

ヴァイオリンが美しい飾りのようなメロディーを聴かせます。ヴィトマンのカデンツァから間を開けずに**第3楽章**に入り、華やかな音楽となります。途中にファゴットが印象的にメロディーを奏でる場面もあり、にぎやかなクライマックスを迎えます。

シベリウス： 交響曲第3番 八長調 op.52

前半で演奏されたベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲から、およそ100年後の1907年に完成したのが、フィンランドの作曲家ジャン・シベリウス（1865～1957）の交響曲第3番です。彼は生涯に7つの交響曲を残しており、ベートーヴェン以降の作曲家の中でも、もっとも重要な交響曲の作曲家の一人とみなされています。第3番は、シベリウスの作風が大きく変わった重要な作品です。最初の2つの交響曲は壮大でロマンチックなものでしたが、第3番はややシンプルとなり、古典的な美しさを持っています。交響曲はふつう4つ以上の楽章で作られますが、この作品は3つの楽章で成り立っていて少し短めです。



Jean Sibelius

この曲を作る前のシベリウスはフィンランドの首都ヘルシンキでたくさんのお金を飲み食いしに注ぎ込んでしまい、健康も害していました。しかし心機一転、都会を離れて北部にある湖の近くに小さな家建て、そこに移り住みました。妻アイノの名前にちなみ「アイノラ」と名付けた可愛らしい家で、最初書き上げた交響曲がこの第3番です。

第1楽章はリズムカルでどこか素朴な美しさのある楽章です。シベリウスがかつて訪れたイギリスの景色に影響を受けたとも言われています。**第2楽章**は夕闇で踊るダンスを思わせる優雅で悲しげなメロディーが印象的です。**第3楽章**は2つの楽章が1つにまとめられたような作りになっています。短めのメロディーが次々と登場するスケルツォが展開して勢いを増していきますが、やがてコラール（賛美歌のような音楽）が何度も繰り返され、弦楽器の刻むリズムやティンパニが迫力を与えて突き進み、最後は金管楽器の力強い響きでしめくられます。

文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

公式SNSでも情報を発信しています！

都響

検索



<https://www.tmsso.or.jp/>

どこでも都響の演奏が楽しめる！
ご覧いただくとともに、チャンネル登録もお願いいたします。

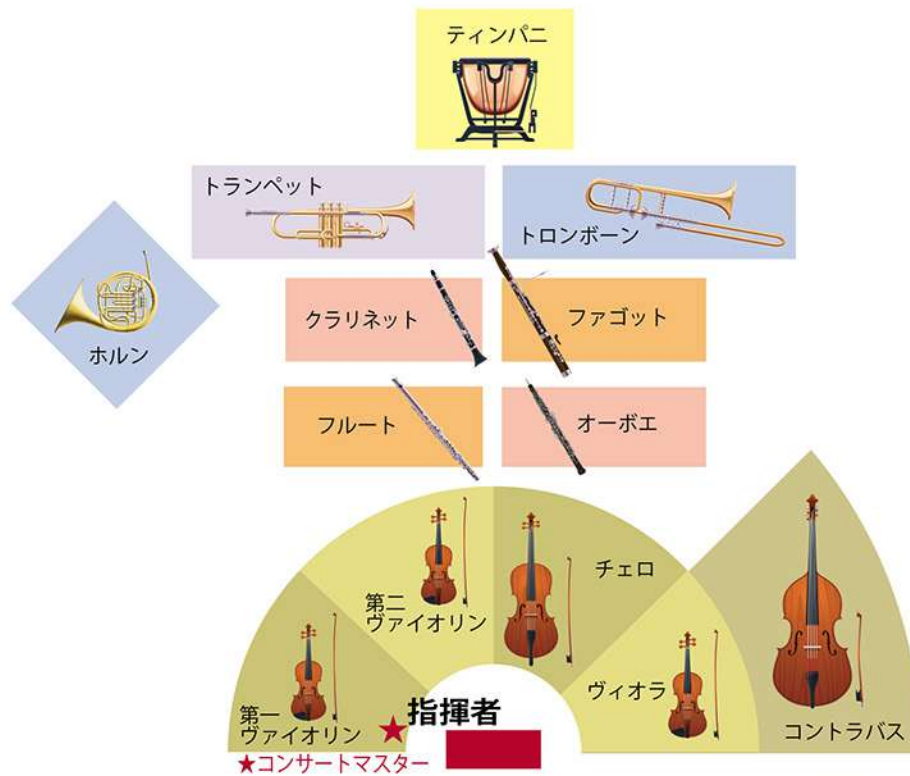
都響公式 YouTube チャンネル



【オーケストラ配置図】

10/5 第1028 回定期演奏会

※楽器の配置は一例です。
当日のステージで確認
してください。



Profile



© Marco_Borggreve

指揮

ヨーン・ストルゴーズ John STORGÅRDS, Conductor

BBCフィルハーモニックとトゥルク・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者、ナショナル・アーツ・センター管弦楽団首席客演指揮者、ラップランド室内管弦楽団（フィンランド）芸術監督を務めている。これまでにベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ゲヴァントハウス管弦楽団、ボストン交響楽団などと共演。

エサ=ペッカ・サロネンが音楽監督を務めた時代（1984～95）にスウェーデン放送交響楽団のコンサートマスターとして活躍。その後、指揮をヨルマ・パヌラ、エリ・クラスに学んだ。BBCフィルとのシベリウスなど多数のCDがリリースされている。



©Louie Thain

ヴァイオリン

ヴェロニカ・エーベルレ Veronika EBERLE, Violin

南ドイツのドナウヴェルト生まれ。6歳でヴァイオリンを始め、クリストフ・ポッペンにレッスンを受けた後、ミュンヘン音楽大学でアナ・チュマチェンコに師事。わずか17歳でラトルの指名を受けザルツブルク復活祭音楽祭に登場、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団とベートーヴェンの協奏曲を弾き、注目を集めた。その後、ロンドン交響楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団などと、ハイティンク、ハーディングなどの指揮者と多数共演している。

ラインホルト・ヴェルト音楽財団から貸与されているストラディヴァリウス「リース」（1693年製）を使用。

管弦楽

東京都交響楽団 Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

東京オリンピックの記念文化事業として、東京都が1965年に設立し、2025年に創立60周年を迎えた。都響（ときょう）という愛称で親しまれている。

東京文化会館（上野）を本拠地として、オーケストラの演奏会を開催する他、交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）などゲーム音楽の演奏、教育活動や福祉施設での出張演奏など多彩な活動を展開している。



©Rikimaru Hotta